

2019年12月1日発行  
淡海ネットワークセンター

<https://www.ohmi-net.com/>



## 2019年度未来ファンドおうみ 「助成先団体セミナー&相談会& 交流会」を開催しました

【開催日：9月29日（日）】

助成事業も中間地点となり、ここで皆様の活動を一度振り返っていただき、問題点などを整理をし、解決方法を検討するとともに、次の活動につなげていってもらえることと、団体間の交流をふかめることを目的として実施しました。

講師は、「地域を育む生態系をつくる」をミッションに滋賀県で実践するとともに、全国各地で支援活動をされている合同会社喜代七代表の山元圭太さんをお願いしました。

第一部は、「社会的成果を生み出す組織になるために」というテーマにしたセミナーです。NPO にとっての社会的成果とは何なのか、とても深い内容の講義でした。マネジメントの父とも言われる P・F・ドラッカーは、NPO は、「自ら成果を定義しなければならない」としています。



自ら成果を定義するためには、どれだけメンバーが成果について強い思いをもって決めたかの「入魂度」と、誰か一人が決めたものではなく利害関係者が価値を認めた「共有度」



が大切だということ学びました。また、講師の山元さんが監修された「ビジネスプラン見える化 BOOK」を使って、具体的に社会的価値を生み出すための6つのステップを学び、ステップごとに落とし込んでいくワークをしました。日々の活動でいっぱいになり、なかなか活動の振り返りをする時間はとれない団体さんも

多いので、良い機会になったと思います。

第二部は、団体さんから事前に提出していただいたヒアリングシートをもとに、第一部で整理したことを団体さん同士で共有し、発表、そして講師からアドバイスを受けるという公開セッションを行いました。

どこの団体も悩みの多くは、資金と人材不足（スタッフ・参加者ともに）、そして事業はなんとか遂行できて、事務をする



人手が足りず、広報や団体活動の振り返り、また寄付集めや新規事業拡大などに手が回らないのが現状、そこをどのように切り込んでいくか、これは団体さんの規模や活動によっても変わってきますね。そもそも自分たちが残したいものは何なのか！（ビジョンなのか、ノウハウなのか、組織自体なのか）を明確にして考えていく必要があるということでした。

交流会はざっくばらんにお互いに聞きたいことを聞きながら、他団体の想いや活動を知り、みなさん共感したり、尊敬しあったり、和やかな時間でした。



未来ファンドおうみでは、様々な基金がありますので、団体さんの活動の幅も広いです。その中で団体さん同士がつながり、コラボ活動をしてさらに活動の幅を広げていくこともできます。11月20日（水）から2020年度助成事業の募集をスタートしています。ご応募お待ちしております！

## 12月は寄付月間です



今年で5年目、また令和初の寄付月間（Giving December）です。

淡海ネットワークセンターも賛同しています。

1年の終わりに、未来を考え寄付をする。

欲しい未来を叶えてくれるさまざまな取り組みに、あなたの想いを託しましょう。

寄付月間とは、NPO、大学、企業、行政などで寄付に係る主な関係者が幅広く集い、寄付が人々の幸せを生み出す社会をつくるために、12月1日から31日の間、協働で行う全国的なキャンペーンです。

この寄付月間は、特定の団体への寄付をお願いするものではありません。一人ひとりがこの機会に寄付について考えたり、実際に寄付してみたり、寄付月間についてソーシャルメディアで広げたりすることや、寄付を受ける側が寄付者に感謝して、きちんと寄付の使い道を報告することが進むきっかけにするためのものです。

## 2019年 助成団体の活動

びわこ市民活動応援基金

ぼてじゃこトラスト



採択事業は、「滋賀の魚つかみ文化を次世代につなぐ、楽しく遊び、学ぶ親子自然体験教室」です。

最近の子どもたちは川遊び、魚つかみをしなくなりました。そこで親子で自然を楽しみ、遊びながら川遊びや雑魚捕りを体験し、滋賀県の伝統文化として継承してほしいと思い、事業を実施しています。



7月の沖島での「琵琶湖の幸を食べる会」では、過去最大の105名が参加するなど大盛況で、行政、学校が自然体験に消極的になってきている中ですが、子どもに体験をさせたい親御さんが多いことがわかります。また、新しい挑戦としては、新たな独自メニューを作成し、他団体とのコラボ事業も実施しています。



ベテラン会員の子どもたちを見ていると、生き物好きのたくましい子どもに育っており、小さい時に自然体験をすることで、大人になって、ふるさとや自然を大切にしたい大人に成長してほしい！という願いをもって活動を続けています。

積水化成品基金

NPO 法人環境と農業の融合を考える会 鹿深の杜



採択事業は、「耕作放棄地の復元と環境整備保全による地域の活性化を目指して」です。

農業の担い手の高齢化や農業収益の減少により、耕作放棄地がさらに増大しており、今までの景観が損なわれ、獣害による作物被害も増大しています。同時に地球温暖化による気象現象の変化により、田畑やため池の保水力が無くなってきています。



採択事業である耕作放棄地の復元については完了し、その畑に大豆を栽培し、収穫した大豆で味噌加工を予定しています。11月9日(土)に開催された「秋の収穫感謝祭」では、積水化成品工業や、セキスイボードの社員さんもボランティアで参加していただき、地域の方もたくさん参加された中、サツマイモを収穫したり、サツマイモのツルでリース作りなどをして、みなさんが生き活きと楽しく過ごされていました。

助成期間が終わってからは、鹿深の杜を自然体験の場として安全な「杜」にすることで、会員や地域の方々の癒しの場、交流の場として利用いただけていると思っています。

## 2019年 助成団体の活動

### びわこ市民活動応援基金 子どもの笑顔が広がる大津の会

採択事業は、「みんなのまち大津」です。子どもたちを取り巻く環境は年々悪化しています。子どもたちは、健やかな成長のためにより多くの素敵な学習や体験ができる環境をつくってあげる必要があるのではないかと考えています。



6月30日に開催したイベントでは、入場者や関係団体をあわせて総勢700名を超える参加者となり、大盛況のうちに終えることができました。また、子ども店長としての店舗も前年度の倍になったり、ゴスペルや絵画、茶道などの新しい団体さんにも参加してもらうことで、素敵な文化に触れてもらうこともできました。



学習や体験の環境を単に学校に任せるのではなく、地域の大人が協力して、地域で子どもたちが育つ場を作り、その中で自主的に活動し成長していくことで、子どもたち自身が地域で成長を実感し、笑顔になれるまち「大津」にしたいと思っています。

### げんさん食育NPO基金 大津市障がい児ホリデースクール北班

採択事業は、「大津市障がい児ホリデースクール北班」です。障がい児は一人で行動することが難しく、休みの日に余暇を充実して過ごすことができないことが課題となっています。予定通りに月に一度は季節を感じられる活動をしなが、旬の食材を利用し調理しながら食育もできており、地域行事に参加するなど地域とのつながりを感じながら、楽しく活動しています。



また、ボランティアも障がい児と一緒に活動することで、障がいへの理解や将来へのスキルアップにも役立っているようです。

障がいがあってもボランティアの手を借りて活動し、人との関わりを学んだり、季節の行事を経験したり、料理をしてみんなで楽しくおいしく食べる経験をして、健やかに成長してほしいと願っています。

### お問い合わせ先

淡海ネットワークセンター（公益財団法人 淡海文化振興財団）  
〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20（ピアザ淡海2F）  
TEL：077-524-8440、FAX：077-524-8442  
E-mail:office@ohmi-net.com

